

1, 「人生の応援歌 幼児期から成人期まで」橋本美恵の講義へのご感想やご意見(一部抜粋)

【保護者 4 歳】

先生と弟さんが歩んで来られた軌跡を幼児期から成人期まで順番にお話を聞くことで、

幼児期からの療育の大切さ、人から学ぶ態勢を作ることが将来社会の中で必要なことだと再認識しました。

そのためには大人がよく観察し、導いてあげなければと思いました。大人になった時に、人から必要とさ

れる人、余暇を楽しめる人になってほしいなと改めて感じます。40代のページの「支援」から「戦力」

へ、という言葉が印象に残りました。親としては、息子にそんな大人になってほしいなと思いました。

グループホームでの暮らしや、サポートブック、医療施設や支援者の方との関わり方、後見人制度など福

祉制度についてもお話を聞くことができ参考になりました。

これから先困難なこともたくさんあると思いますが、観察することを忘れず、息子の可能性を信じ大人

になることを恐れず、一緒に成長していきたいと思います。

【療育教室職員】

この講座は、まさにタイトルの通り「人生の応援歌」だと、橋本先生の講義を聞いて感じました。橋本

先生ご自身が、弟様に対して実践されてきたことや、その成果、反省についてお話される姿に、胸が詰ま

る思いでした。ご家族だからこそ抱える葛藤や願い、希望が伝わりました。橋本先生が 「もっとこうし

ておけばよかった」と振り返られていた、家の中で育てることが中心となり、外食や公共交通機関の利用

などの日常的な経験をさせてあげられなかったこと。子どもは実際に経験することで多くを学んでいける

ので、恐れず挑戦する機会を与えることの大切さを感じました。

また、きょうだいとしての悩みや成長についてのお話も印象的でした。きょうだい児の思いは、年齢や

立場、性別によっても異なり、思春期には障がいのあるきょうだいの事を隠したい気持ちや、将来への不

安を抱くこともある。橋本先生が当事者として実感されたことを赤裸々にお話されたことで、同じような

境遇にある方々の希望や支えになると感じました。私がこれまで聞いてきた話の多くは、当事者と母親支援に関する内容の話が中心でした。しかし、きょうだいのいる家庭への支援についてのお話は、きょうだい児たちが安心して自分らしく成長していくためにも、このような支援、助言はとても大切だと感じました。

【事業所職員】

ご自身の弟さんとの体験からやって良かったことや、やれば良かったと思うことなど、多くを聞くことができました。特に人との関わり方、自他の区別や身辺自立はとても重要で、子ども達には早いうちからできるように、やろうとチャレンジできるように支援をしていきたいと思いました。今、私自身がやっている仕事は、高校生までの1日2、3時間程度関わるだけですが、その数時間で将来その子たちができる限り健康な部分をフル活用できるようにしていきたいと思います。

【事業所職員】

ご兄弟の話を交えながらの講義はとても分かりやすく、支援者側としてすぐに実践したくなる物でした。特に「観察の視点」はとても勉強になり、明日からの支援ですぐに取り入れていこうと思いました。また学習に対しての見直しも必要だと思いました。今でも日常生活で必要だから将来役立つからとの思いで、一人ひとりの合った課題を出していますが、明日から改めて話し合っていこうと思いました。

【特別支援学校教員】

家族に障害のある方がいらっしゃる立場としての思いや取り組まれたことのお話を聞くことができ、なるほどと思うところがたくさんありました。障害が重いから仕方ないというのではなく、将来の為に何に取り組めば良いのかを考えて取り組みたいと思います。

2, 「伴走者として」俣野勇士郎先生の講義のご感想やご意見 (一部抜粋)

【保護者 4 歳】

子どもたちの「心」を育てるために、こどもの成長には基礎学習が欠かせないということが印象に残りました。「分かる」ことはうれしい、という言葉も本当にその通りだなと思いました。

文字や数量を学習することの大切さも分かり、今行っている家庭療育が小学校での学習、生活につながっていくんだと改めて実感しました。

橋本先生のお話と同じく、子どもをよく観察することの大切さを感じました。いろいろな児童の方の例がとても興味深かったです。何に困っているのか、どうやったらできるようになるのか、さまざまな工夫を経て成長していく様子に感動しました。まさに伴走者だと感じました。

保護者と学校側の指導方法の共有の仕方も参考になりました。先生と協力しながら子供の可能性を伸ばしていける小学校生活にしたいと思いました。

【保護者小2】

事例を交えての講演がとても分かりやすく、ありがとうございました。発語なし、書字ができないお子さんが筆談できるようになったお話は、わが子の療育に希望が持てるものでした。

学習は必要ないというのは、私の両親からも言われました。でもやはり学習が心を育てますよね。その理由が理解できました。ありがとうございました。

【保護者小3】

先生の事例はいつも子どもの分かりづらさに寄り添っておられ、学びを通してお子さんの行動を適切な姿へと導かれて、大変感激しております。

「分かりたいと子ども達は思っている」本当にそうなんだろうなと思って、自分の子どもに向き合っていたいと思います。先生、貴重なお話ありがとうございました。

【保護者小4小2】

スライドとても分かりやすかったです。ありがとうございました。小4の息子に勉強を教えるのが難しいと感じていました。(昨年度より) その理由もよく分かりました。具体物がある方が分かっていることが多いです。工夫してやっていこうと思います。

【保護者小6】

俣野先生の講義には、いつも一人一人のお子さんのことを考えた深い優しさを感じます。

“できない”を“大人が決めない”先生の講義を何度か聞かせていただいた中で、私も意識的に頭に刻むようにしています。まだまだ、“支援級だから”“自閉症があるから”“知的障害があるから”そんな世の中の見え方が大多数の中で、挑戦するチャンスさえも環境的になくしてしまうこともあり、息子をしっかり育てていくしかないと思う一方でくじけそうな日もたくさんあります。が、本人の気持ちを満たしていく、自信がないなら、自信をつけていけるような言葉がけや方法を私が一緒に探す、心を育てていく。

大切に愛をもって、関わっていこうといつも感じています。「聞かなくていいから刺激に鈍感になる」というお話も、すごくしっくり落ちました。

色んな方向から見られる、本当に小学校の先生なのかな(とってもいい意味で)とも感じる分析力です。

【事業所職員】

自分の子どもたちへの関わりや支援指導に足りないことがたくさん見えてきました。特に、私自身が躓いてしまっていること…課題や活動をやらない!と強い気持ちと発信がある子どもとのやりとりに躓いています。「やらされる、怒られる→ますますやりたくない!」という負のスパイラルを作りたくない、本人

が少しでも「まあやってみようか」と思える状態を作りたい、という私自身の思いはありながらも、なかなかできないことがあります。

先生のお話をお聴きしてできないことにばかり目を向けるのではなく、どうしたらできるのかに目を向けるなかで子ども自身が納得する形でルールを決め進めていくこと、子どもが向き合っている時やできている時にこそ認める支援が大切なことを学びました。焦らず、1 つひとつ丁寧に取り組んでいこうと思います。ありがとうございます。

【大学生】

情報化社会やキャッシュレス決済など、便利なものが増える一方で、物事の本質や価値が見えにくくなる可能性があるというお話が印象に残りました。大人でさえ本質や価値を見失いそうになることがあるのだから、生まれたときからその環境が当たり前のようにになっている子どもたちはなおさらだろうと感じました。だからこそ、子どもたちが将来社会の中で自立して生きていくための基礎的な学習が重要であるのだと考えました。

子どもたちにとっては難しかったり、なかなか成果が見えなかったりといったことから、基礎学習の意味を見出しにくいこともあるのではないかと思います。しかし、教師は「なぜ学ぶのか」「どのように将来につながるのか」ということを見失ってはいけないのだと思いました。だからこそ、子どもたちが「やりたい」、「できるようになりたい」と思えるような教材の工夫や提示の仕方をするのが重要だと感じました。

また、子どもたちが学習に向かえない理由は、単にやる気がないからではなく、どのようにして良いのか分からないという分かりにくさや、納得感がないといった場合も多いのだと思いました。子どもの言動をどう捉え支援していくかという教師の関わり方によって、子どもの困り感や成長は大きくかわるのだと

思いました。その分責任の大きさを感じ、今から不安になってしまう時もありますが、同時にやりがいでもあるのだと思いました。

紹介して下さった実践例からは、子どもを思う気持ちやあきらめない姿勢がそのまま子どもにも伝わっているのだということを感じました。支援する際の技術や方法もちろん大切ですが、教師の思いも子どもの成長を支えるのだと思いました。

【特別支援学校教員】

なぜ、数や文字の習得が大切なのかを実践の裏付けと共に、シンプルに（思いは熱く）伝えて頂き分かりやすかったです。「適切な支援（課題も含めて）」があれば必ず成長するお子さんであることを信じて、取り組むことの大切さを改めて考えました。

振り返り（自分の取り組み）をする方針は変えないけど修正する大切さもその通りだと思います。どんなに小さな事でも「やり切る」「やり切った」という子どもの内なる体験が、とても大切なことであることも再確認できました。すぐに寝てしまうCさんの支援、私の学校にもいるので支援のあり方が参考になりました。

「子ども達に敬意を払い継続して取り組む」この言葉を心に留めて、明日から頑張りたいと思いました。

【特別支援学校教員】

「分かる」ことはうれしい」認知や概念を丁寧に個別学習で行い、集団学習で活かせたらと思いました。よく観察し、記録し、「どうやったらやるんだろう」と毎日がんばります！ ありがとうございます。

3, 「家庭療育の実践」「保護者の経験談」と「支援者の経験談」へのご質問

【保護者】 年中 4 歳児

支援者の方が知っておきたい家庭での様子や共有できたら助かることなど、があれば聞いてみたいです

【保護者】 年長 5 歳児

親がやる気が出ない時のモチベーションのあげ方

【保護者】 小学 1 年生

本当に苦労されたこと、されていること、それを克服できたお話があればうかがいたいです

【保護者】 小学 3 年生

保護者の経験談では、子どもの問題行動が増えると親は心も体力も疲れてしまうと思います。その時、
どのようにして気持ちを立て直されていますか

支援者の経験談では、あらゆる支援を試しても子どもが落ち着かない、その時の最終兵器的な支援は
どのようなことですか（個人的にあるのか）

【保護者】 小学 3 年生

成人施設の種類やどのような区分の方が対象なのか どのような方が困られるか

18 歳になるに向けて事前に準備しておくといいこと（就職、成人施設入所に向けて）

【保護者】 小学 6 年生

私と一緒にできる時はいいのですが、ほかに手が離せないことがある時、「少し一人でしといてね」
と伝えるとぼーっとしたり「わからへん」と一人で進められることが少なく、気づいたら”終わらせて

いるけれど、私の確認なしに自己完結している”ことがあり、“早く終わらせたい””お母さん気づかなか
ったらラッキー”くらいに捉えている感じがします。今はわり算の筆算や多数桁の掛け算をしているの
ですが、① 1 問一緒にやる ② 1 問一人でやってみる（私が横にいる）③ 1 問一人でやってみる（私が
その場から離れる） ③になると、気持ちはその場から離脱していて、進みにくいことがあります。

机上学習は一緒にする、料理など、進めていけるものを一人でさせた方がいいのでしょうか？

【保護者】 19 歳

20 歳を越えられた方のお子さんの就労（障害者雇用枠など）で社会人になられたケースがあれば、
保護者の経験談をお聞きしたい

「高機能自閉症」の人たちはどういった就労をされているのか専門家の方の話をお聞きしたいです

「障害者年金」を掛けていきたいと思うので、具体的にどう動いていったら良いのか、教えていただけ
たらありがたいです

【事業所職員】 未就学～高校 2 年生

日々忙しい業務の中で、どのように自己研鑽を続ける意識を保っているのかを知りたいです。また、講
座に参加されている保護者の方が(熱心に家庭療育されている方が)学校や児発・放デイに対して具体的に
どのような支援や関わりを最も求めているのかについてもお聞きしたいです。

【事業所職員】 0 歳～成人

誤学習してしまった児童への修正に向けての関わり方を教えてください。

【療育施設職員】

児童発達支援や放課後等デイサービスでの支援において、事業所側の支援方針と保護者の希望に相違が生じることがあると思います。例えば、家庭の事情により預かり時間の延長を希望される場合など、支援の目的と保護者ニーズの間で調整が必要な場面では、どのように対応されているのかお聞きしたいです

【学生】

学校や療育施設、放課後等デイサービス（複数のデイサービス間）などで支援の仕方や対応の違いによって子ども自身や保護者の方が困ったことはあるのか

家庭や学校、支援する施設等の間で、連携して一貫した指導、支援をする上で難しいと感じること

「できない」と思われていたことができるようになった事例があれば教えていただきたいです

2026 ひょうご連続講座 アンケート 2日目 6月28日（日）

1, 午前の講義「家庭療育の実践」橋本美恵、保護者経験談の講義のご感想ご意見をお書き下さい

【保護者 4 歳】

橋本先生のお話を聞きながら、今現在家庭で行っている課題の意味や目的を改めて見直すことができました。一つ一つの課題に色々な狙いがあり、無駄なことは何一つないんだな、と教材の強さを感じました。

どうしてもやらせるのが大変な課題を避けてしまうことがあるのですが、私自身も導ける力をつけ、息

子と一緒にできた！という経験を増やしていきたいです。

保護者の方々のお話も、とても参考になり励みになりました。きつとここに至るまで、そして現在も様々な悩みや葛藤もあるかと思いますが、お子様たちの成長されたお話を聞くことができ、希望を感じることができました。

最近課題をこなすことが目的のようになってしまっていたのですが、橋本先生と保護者の方のお話を聞いて、家庭療育の意味を改めて考えることができました。

【保護者 小4 小2】

最近の悩みが忙しい毎日の中で、同日々の生活の中で取り組んで行けば良いか？ということでした。今日の話を聞いて、保護者の方がお話されておられたことは、自分の中で答えのようなものでした。ありがとうございます工夫が必要だと感じていたけど、それをどう生活の中に取り組んでいけば良いか分かりました。毎日の小さな積み重ねの大切さもよく分かりました。

帰ったら早速やっこさん折ります！！

【療育教室職員】

トモ二療育センターの「自立を目指した具体的目標（7項目）」と「内面的目標（2項目）」は、発達に特性のある・なしに関わらず、すべての子どもたちに共通する大切な目標であると思いました。

具体的目標である「基本的生活習慣の確立」「社会で生きていくためのコミュニケーション力」「自分の思いどおりにならない出来事にも適応できる力（理性）」「基礎学習の習得」「家事をこなす力」「身体づくり」「余暇を楽しみ、人生を豊かに過ごす力」は、子どもたちが将来、自立した生活を送るために欠かせない力であり、身に付けなければいけない力だと思います。

また、内面的目標である「愛すること・愛されること」そして社会の一員として教育・勤労・納税という三大義務につながる意識を育むことも、人格形成の土台となる重要な視点であると改めて感じました。

今回の講座を通して、これらの目標を常に意識しながら、一人ひとりの子どもの将来を見据えて日々の課題学習に取り組むことが大切であると改めて認識しました。

保護者の方の経験談を伺い、大変考えさせられるとともに、支援につながるまでの経緯に悔しさを感じました。保護者の方は、一番近くで我が子の成長を見守る中で違和感を抱き、専門機関へ相談されました。しかし、異常はない、テレビをあまり見せないように、といった助言や、まだ3歳なので個人差の範囲であり、様子を見ましようといった根拠のない対応により、適切な支援につながるまでに時間を要したとのこと。我が子の発達に不安を抱えながらも、周囲から十分に理解されず、先の見えない不安や焦りを抱えながら日々を過ごされた保護者の心情を思うと、その苦しさは計り知れないものだったと感じました。その後、4歳で診断を受け、療育が開始されたことは、大きな一歩であったと思います。しかし、子どもの発達を支えていくためには、子どもへの支援だけではなく、最も長い時間を共に過ごす保護者が子どもの特性を理解し、適切な関わり方を学ぶことも重要であると思います。

今回の講座を通して、保護者の不安や思いに丁寧に寄り添い、出来る限り早い段階で適切な支援へつなぐことの大切さを学ぶことができました。

【事業所職員】

日常会話は話せるし、平仮名も読めるが、文字。数字共に書けない子が事業所におり、その子には今までなぞり書きをさせていたのですが「ひらがなのマッチング」や丸を塗る練習などを行い、早めに自分の言葉を書けるようにしてやった方がいいなと思いました。また、自分の名前はひらがなではなく、漢字の子は漢字で書く練習をさせていく方が、長い目でみると大切な事なんだと思いました。まず、形の認識からしていきたいです。

【保育士】

家庭は社会生活の基盤を学ぶ場であるという事を改めて学びました。様々な体験をすることで、今後の生活に直結しているのだと思いました。保護者の体験談からも、山登り、マラソン、絵日記など、少しずつ取り組み生活の一部になっている事もよく分かりました。算数、国語の勉強だけを学ぶのではなく、一つの事から学びを広げていったり、料理を通じて質問して進めていったり、本当に日々の生活で学ぶことが沢山ありますね

【幼稚園 園長】

今回、橋本先生のお話の中に何度も幼児期という言葉が出てきたように思います。それだけ幼児期が重要ということを改めて感じ、しっかり関わっていかなくてはいけないという使命感を感じました。

「100並べ」や「ひらがなマッチング」、「やっこさん」「コックさんのえかきうた」など何のために取り組むのか目的意識をしっかりもち、園生活（遊びやクラス活動）と並行して取り組んでいきたいと思えます。

2, 午後の演習「分数」侯野勇士郎先生のご感想やご質問をお書き下さい

【保護者小5】

分数の教え方がとてもわかりやすかったです。息子は、機会的に計算はでき、帯分数→仮分数、仮分数→帯分数にはできるが、どちらが大きいなど意味がわかっていません。意味付けることの大切さを実感しました。早速、息子に実践してやっていきたいです。

実際に授業受けているようでとても楽しかったです。侯野先生の授業はおもしろいんだろうなと思いました。ありがとうございました。

【事業所職員】

とても分かりやすく、自分が子どもの時にもこの方法で知りたかったと思いました。タイルを使うことで、子どもと支援者が同じものを見ながら共通理解しやすく、一緒に取り組みやすいと感じました。

分数は、支援者自身も説明しながら分からなくなってしまうことがあります。具体物を使うことで見て理解できるため、子どもにも伝わりやすいと思いました。いつも楽しく、分かりやすいご講話をありがとうございます。

また、「経験の機会」や「あたり前のことを丁寧に伝えること」は、支援者として忘れてはいけない大切な視点だと感じました。できたことへの喜びをしっかりと伝えながら、子どもたちの経験を増やしていきたいと思います。

【大学生】

分数は1より小さい数を扱うので理解することが難しいと思いますが、まずは児童にとって身近なもの結び付けて学ぶことが大切なのだと感じました。例えば、1つのものを3人兄弟で分けるというところから考えるなど、日常生活と関連付けることで、分数をより身近なものとして捉えられるようになるのだと思いました。また、計算をする際にも、「3分の3は1と同じだね」というように、一つ一つの段階を丁寧に確認しながら進めることで、児童がつまずくことなく理解していけるのだと思いました。

例題として図を用いてみんなで考える問題では理解できていても、自分一人で別の問題を解く場面になると、学んだことを活用して考えることが難しい児童も多いと思います。そのような場合でも、図を使って考えることを繰り返すことで、少しずつ自分で考える力や理解を深めることにつながるのだと感じました。

また、下学年対応の児童に対しても、分数などその学年で学習する内容に触れる機会を設けるというお話が印象的でした。「理解するのは難しいだろう」と最初から学ばないのではなく、教材や指導方法を工夫しながら学ぶ機会を保障することが大切なのだと思います。特に分数は日常生活の中でも使われる場面が多いため、全く知らない状態にいるのと、学校で少しでも触れた経験があるのとでは、その後の生活の中で大きな違いが生まれると感じました。

【保育士】

「分数の分ける」というと、ケーキ（丸）を想像してしまいましたが、正方形（タイル）を使うと理解しやすいという説明に納得できました。また、数字だけでイメージするのは難しいですが、タイルに置き換えることで子どもたち（大人も）が納得できると、計算式に繋がっていく事や、視覚的に伝える事の大切さがよく分かりました。

3, 午後の講義「支援者の経験談」についてご感想やご意見をお書き下さい

【保護者 4 歳】

成人期支援をされていた方のお話を聞く機会は滅多にないので、とても貴重な時間でした。

障害がある方の社会で生きていくための厳しさや大変さをよくご存知だからこそ、幼児期の関わり方の大切さのお話を聞くことができとても参考になりました。

社会に出た時に必要とされる人になるには？と考えると、今目標とすべきこと、やるべきことをより具体的に描くことができました。将来、生き活きと働く姿を思い描きながら、今しかない幼児期を過ごしたいです。

【保護者 小2】

三名の先生方、貴重なお話をありがとうございました。中でも、飯田先生の「成人期支援から見えてきたこと」、「企業が求める人材」については、今している療育の道しるべをいただいたようで、とてもありがたい内容でした。理性を育てるために、今どんな療育をしていけばよいか、改めて考えてみます。

【保護者 小4】

大人になった時のことを想像して、今から準備するということが大切だと思いました。

また、どのように準備するのかという考え方を知ることができました。

自分が親として気をつけるべきことや大事にすべきことが少しわかったことで、将来への不安が少し軽くなりました。

【事業所職員】

濱本先生の事業所でされている「やっこの廊下」の様に毎日の宿題、続けてやることの大切さが大事だと思いました。

原槇先生の変化してきた放デイの支援できる日は多いが長い目で見ると学校卒業後の過程での過ごし方が不安で手放しでは喜べないというのも、その通りだと思いました。

【事業所職員】

支援をしている中で、幼少期から成人期まで、さまざまな世代の方に関わらせていただくことがあります。その中で、障がいの特性や度合いによって「できること」「できないこと」に違いがあり、時には驚く

こともありますが、そのお話にとっても共感しました。

療育をしていく中で、今の小さな積み重ねが、成人期になった時の生活や就労につながっていくのだと改めて感じました。「今」がとても大切であり、一瞬一瞬の関わりを大切にしていきたいと思いました。

4, 「金銭指導」についてご質問をお書き下さい

【保護者 小1】

小1でまだ言葉を話せない子に対して、今お金のことをどう考えていったら良いのでしょうか。まずは100 並べができないとそこまでいけないのではないかと考えてしまいます。

【保護者 小2 小4】

何でも欲しい物があるとすぐに欲しがり、買わないことを言うとすぐ不機嫌になります。高価な物でも価値をわかっていない（まだ知らない）からか、この辺りもしっかり学び、伝えていきたいです。

【保護者 小4】

おこづかいの金額設定を学年ごとにどのように考えるのか知りたいです。

また、月のお小遣いを固定するのか、お手伝いをした時にお小遣いをあげるのかなど。

お小遣いのあげ方や、あげる時の考え方、使い方をどうやって子供と一緒に決めるのかを知りたいです。

【保護者 小6】

お店では情報量が多く、税込み価格での多品の買い物だと暗算が追い付かず携帯の電卓等を使ったり、私が口頭で筆算のサポートをしています。まずは総額の支払いに優先順位を置く場合、計算は私がして伝

えてもいいのでしょうか？電卓で本人にさせて体感することの方がいいのでしょうか？

【事業所職員】

机上学習では 5 円、50 円の理解ができていると勝手に判断し、実践で買い物、自動販売機での使い方ができなかった児童（中 1）への指導方法に悩んでいます。

【事業所職員 小 1～高 3】

1 円×10 枚＝10 円 10 円×10 枚＝100 円 の同じ価値の理解

【事業所職員】

家庭でのお金の使い方（お小遣い制などについて）

人間関係が広がる中でのお金の使い方をどのようにご本人と考えていくのか（友人との外出時なども含め）が今後の課題だと思っています。

【事業所職員】

見えないお金、たとえばキャッシュレス決済や電子マネーなどの価値を、子どもたちにどのように伝えていけばよいか知りたいです。また、「働くことが対価につながること」「物をお金と交換して手に入れること」「必要なものや欲しいものを手に入れるためにはどうすればよいか」ということを、子どもたちに分かりやすく伝える方法を学びたいです。

計画的にお金を使いながら生活していくために、家庭や支援の場でどのような経験を積ませていくとよいか、具体的な支援方法を知りたいです。

【こども園 保育士】

今は何でも PayPa y、コード決済になってしまうので、私自身もどうお金がまわっているのか分からなくなります。そんな時の対応を教えてくださいたいです。

【幼稚園教諭】

キャッシュレスになりお金を扱う経験が減っている今、お金の種類もわからない、お金の価値までわかるのでしょうか。

【大学生】

- ・「これは現金で払う」「これはキャッシュレス決済で払う」といった使い分けも教えた方がよいのでしょうか。
- ・必要なものと欲しいものの判断はどう教えたら良いのでしょうか。

その他の質問

【事業所職員】

未就学児で昼寝をしない子の対応。強要できない、拘束になると言われて。夕方になり寝てしまう子の対応に悩んでいます。